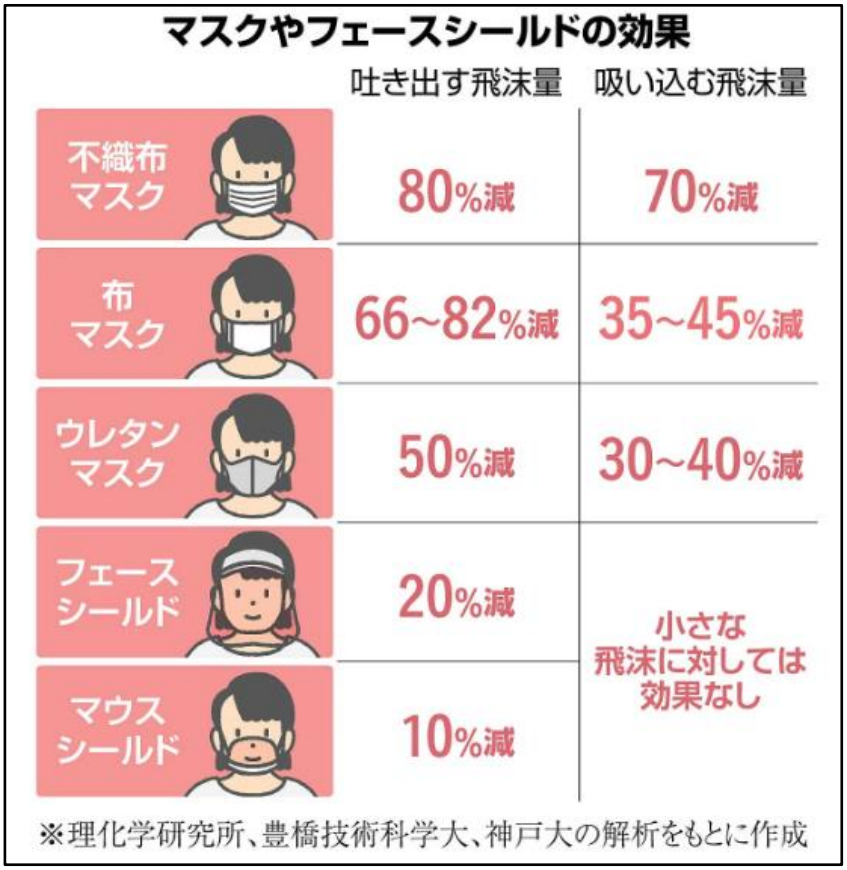
接種後もマスクは必要？

読売新聞



デルタ株による感染の拡大で、ワクチンの２回接種完了後も当面はマスク生活が続きそうだ。

米疾病対策センターは 2021 年春、２回のワクチン接種を終えた人のマスク着用を段階的に緩和したが、７月に改めて、公共施設内での着用を求めた。一方、ワクチン接種が進んだ英国では７月、新規感染者数が高止まりする中、マスク着用を含め、行動規制の全面的な解除に踏み切った。

日本は現在、感染拡大とともに深刻な病床数のひっ迫が起きている。知らずに感染してウイルスを広げる可能性もあり、接種後もマスクや換気、手洗いといった感染対策が必要だ。

スクの素材によっても効果は異なる。スーパーコンピューターによるシミュレーション（想定実験）などによると、飛沫を防ぐ効果は、不織布が７０～８０％と高いのに対して、ウレタンは３０～５０％。専門家は「感染拡大を防ぐには、不織布マスクの着用と、換気を適切に行うことが最も大切だ」と指摘する。

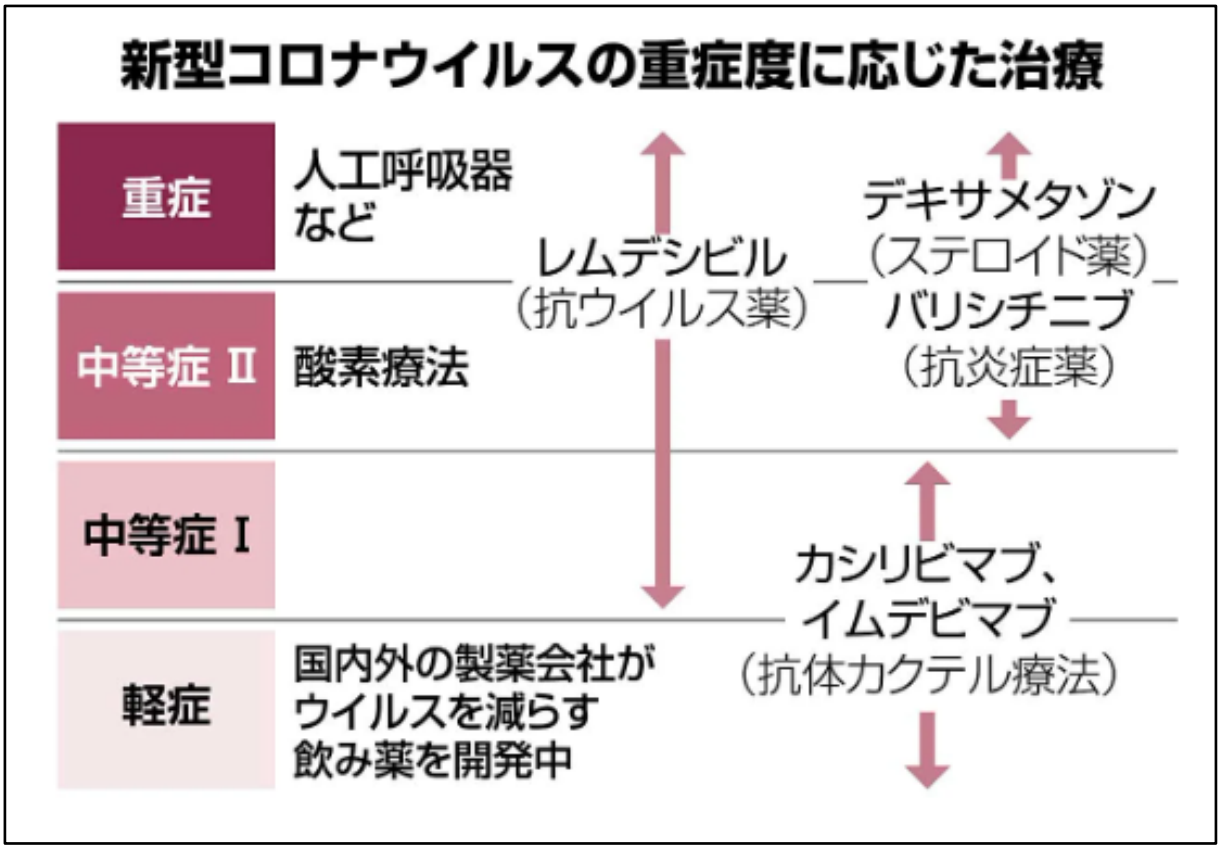
特効薬はある？既存の薬で効果があるものは？

新型コロナでは、まず他の病気の既存薬が転用された。元々はエボラ出血熱のために開発された抗ウイルス薬「レムデシビル」は、厚労省が昨年５月に特例承認した初めての治療薬だ。その後も、過剰な免疫反応を抑えるステロイド薬や抗炎症薬が認められた。いずれも中等症、重症用だ。

一方、２０２１年７月に厚生労働省から特例承認された点滴薬は、新型コロナから回復した人の抗体を利用するなどして人工的に作った新薬だ。２種類の抗体を混ぜて使うため「抗体カクテル療法」と呼ばれる。異例のスピードで開発され、対象は軽症、中等症の患者。海外の治験では、入院や死亡を７割減らす効果を示した。２種類の抗体が入っているので、変異株にも強いとされる。

ようやく軽症、中等症、重症で使える薬がそろったが、点滴薬を自宅療養で使うのは難しい。発症早期から患者が自宅でも服用できる飲み薬の開発を、国内外の製薬会社が急ピッ

チで進めている。


新型コロナウイルスの重症度に応じた治療
重症
人工呼吸器
など
中等症 Ⅱ
酸素療法
中等症 Ⅰ
軽症
国内外の製薬会社が
ウイルスを減らす
飲み薬を開発中
レムデシビル
（抗ウイルス薬）
デキサメタゾン
（ステロイド薬）
バリシチニブ
（抗炎症薬）
カシリビマブ、
イムデビマブ
（抗体カクテル療法）